

【教育関係共同利用拠点 令和 7 年度実施計画書】
 (練習船、演習林等、農場、臨海・臨湖実験所、水産実験所)

1. 拠点の概要

(1) 目的・概要等

大学名	筑波大学	学長名	永田 恭介
拠点代表者名	呉羽 正昭		
拠点の名称	ナチュラルヒストリーに根ざした山岳科学教育拠点		
共同利用分野	演習林等		
目的・概要	山岳科学センターを母体として、生物学・農学・地球科学・環境科学を分野横断する拠点として、山岳科学教育の更なる普及と深化を図り、生物多様性に軸を置きつつ、幅広く山岳科学分野の諸問題を解決できる人材を育成する。		

(2) 当該年度における実施計画(概要)

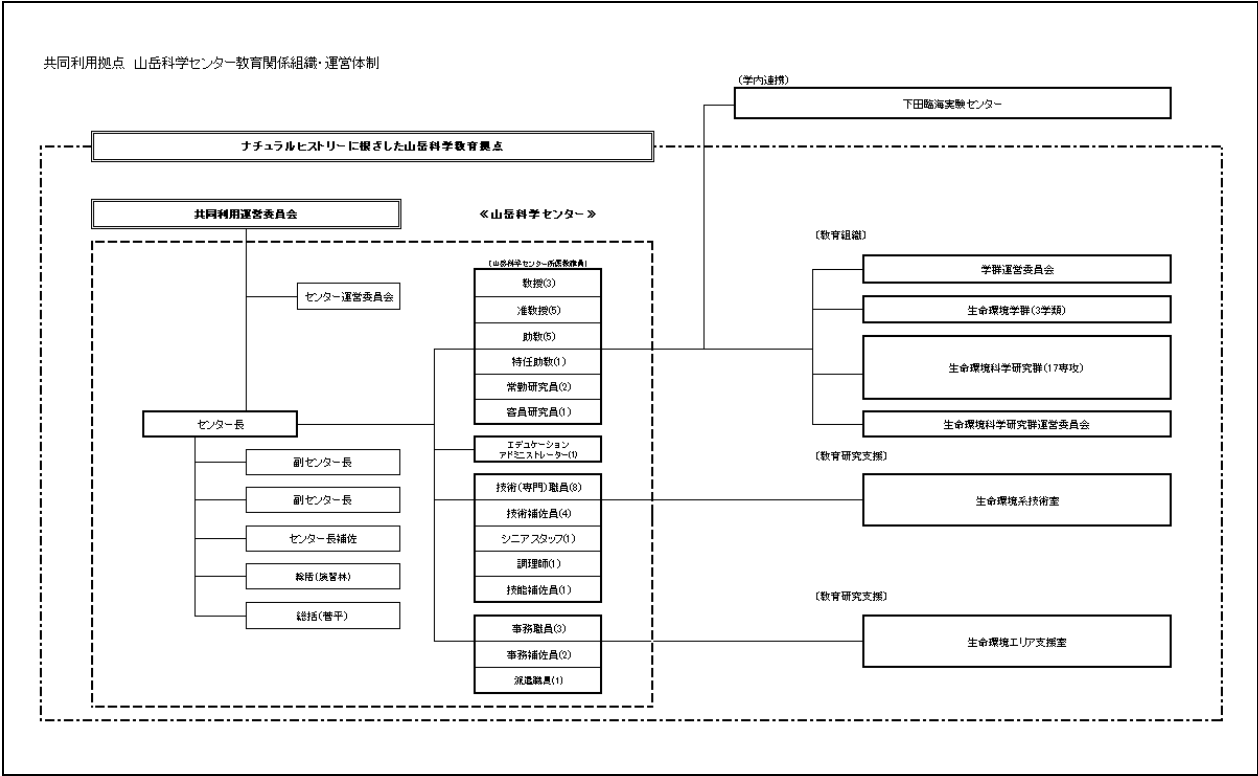
- ① 学部生向けに 8 実習、院生向けに 9 実習を全国公開実習として準備し、受講希望者がいた場合開講する (3-2 (1) 共同利用の概要 (i) 大学による共同利用)。
- ② 国際化として、外国人留学生ならびに英語での受講を希望する日本人学生向けに「Laboratory and Field Studies in Biology」を全国公開実習として開講する (3-2 (1) (i) 大学による共同利用)。
- ③ 全国演習林協議会の単位互換に関する協定の枠組みを活用して、「森林・水文砂防学実習」を、学部生向け公開実習として開講する (上記①に含まれる、3-2 (1) (i) 大学による共同利用)。
- ④ 他大学や筑波大学が正課として開講する実習を積極的に受け入れ、施設や構内の案内や情報提供、講義や教育プログラムの提供といった支援を行う (3-2 (1) (i) 大学による共同利用)。
- ⑤ ④以外にも、学会関係のワークショップや、小・中・高等学校の課外活動、地域連携の教育関わる活動を積極的に受け入れ、同様の支援を行う (3-2 (1) (ii) 大学以外の機関による共同利用)。
- ⑥ 筑波大学と他大学の学部生・院生の研究指導を受け入れる。当研究センターのフィールド施設を最大限活用できるよう、情報やデータベースと、所属する教員の最先端の知識とスキルを提供する (3-2 (1) (i) 大学による共同利用)。
- ⑦ 最新の設備を活用した魅力的なフィールド教育・研究が行えるよう、林冠タワー、ネットワークプリンター等、設備と施設の充実化と安全管理体制の整備を行う。また、これまでに開発してきたフィールド IT およびデジタル学修コンテンツの活用を促進する。
- ⑧ 公開実習広報用ポスターおよびリーフレットを作成して全国の国公立大に配布し、周知する。また、ホームページ、SNS 等、インターネットを使った情報発信もさらに充実させる。これら広報物とホームページの英語版の内容を拡充し、国際的に活動をアピールする。国立大学法人 10 大学理学院長会議の申合わせに基づく理学研究科等間における学生交流制度 (通称 STEP10) を通じた広報を行う。
- ⑨ 共同利用運営委員会を中心として、一年を単位とした PDCA (plan-do-check-act) サイクルを通して、本事業活動を改善させる (3-1 (2) 審議する委員会等の所属者名等)。

様式 1

2. 組織等

(1) 当該拠点を記載している学則等
(別紙として添付してください。)

(2) 組織図



(3) 人員 (令和7年4月1日時点)

教授	准教授	講師	助教	助手	小計	技術職員	事務職員	合計
3	5	0	5	0	12	8	3	23
(5)	(8)	(2)	(2)	0	17	(4)	(2)	(23)

(4) その他人員 (令和7年4月1日時点)

特任助教1名、常勤研究員2名、客員研究員1名、エデュケーション・アドミニストレーター1名、シニアスタッフ1名、調理師1名、技能補佐員1名、派遣職員1名

様式 1

3-1. 共同利用実施のための運営体制

(1) 審議する委員会等に関する規則等
(別紙として添付してください。)

(2) 審議する委員会等の所属者名等

委員会名【共同利用運営委員会】

氏名	所属機関名	役職名	専門分野
東城 幸治	信州大学学術研究院 理学系生物科学領域	教授	進化生物学
塘 忠顕	福島大学共生システム理工学類	教授	昆虫比較発生学
苅谷 愛彦	専修大学文学部環境 地理学科	教授	地形学・自然地理学
今泉 文寿	静岡大学学術院農学 領域	教授	砂防工学・地形学
藤沼 良典	国際基督教大学教養 学部	准教授	環境学
堀田 紀文	東京大学農学部	准教授	砂防工学・森林水文学
荒瀬 輝夫	信州大学農学部 AFC	准教授	野生資源植物学
下野 綾子	東邦大学理学部生物 学科	准教授	植物生態学
木村 恵	秋田県立大学生物資 源科学部	准教授	森林生態学・分子生態 学
呉羽 正昭	筑波大学生命環境系	教授	観光地理学
上條 隆志	筑波大学生命環境系	教授	生態学
田中 健太	筑波大学生命環境系	准教授	生態学
出川 洋介	筑波大学生命環境系	准教授	菌類学
八畑 謙介	筑波大学生命環境系	講師	動物系統分類学
横井 智之	筑波大学生命環境系	助教	保全生態学
山川 陽祐	筑波大学生命環境系	助教	砂防学

男女比	男性委員	女性委員	合計
人数	14 人	2 人	16 人
割合	87.5%	12.5%	100%

学外学内比	学内委員	学外委員	合計
人数	7 人	9 人	16 人
割合	43.75%	56.25%	100%

(3) 大学（法人）全体として共同利用を推進するための取組

教育関係共同利用拠点認定に伴い、当該施設において実施する公開実習に他大学の学生・院生を特別聴講学生として受け入れる場合、国公立を問わず当該授業に係る授業料を不徴収とする。また、筑波大学が成績証明書を発行する。

様式 1

3-2. 共同利用の見込み

(1) 共同利用の概要

(i) 大学による共同利用

【別紙様式 1-1】のとおり

(ii) 大学以外の機関による利用

【別紙様式 1-2】のとおり

(2) 共同利用の見込み

【別紙様式 1-3】のとおり

(3) その他、共同利用拠点として、特色ある取組等

学部生向けには 8 の全国公開実習を、院生向けには 9 の全国公開実習を開講する予定である。数もさながら、生物多様性と山岳科学分野の基礎から応用まで網羅できるよう、広範にラインアップしている。昨年度に引き続き、国際化を図るべく、外国人留学生や英語での受講を望む日本人を対象とした英語による全国公開実習を 1 つ開講する。さらに、最新の設備を活用した魅力的でかつ、安全安心なフィールド教育・研究が行えるよう、林冠タワー等の継続的な整備・導入を図る。また、これまでに開発してきたフィールド IT およびデジタル学修コンテンツの活用を促進する。

3-3. 共同利用に係る支援予定

(1) 共同利用する大学への支援の見込み

安全・安心に、かつ高度な内容の実習等が実施できるよう、施設・設備・備品・消耗品・資料において、可能な限り整備を行い、提供する。菅平高原実験所ではアレルギー、宗教等に十分配慮しながら 3 食の提供を、八ヶ岳演習林においては自炊施設の提供や仕出し弁当等の情報を提供する。井川演習林では自炊施設を提供する。筑波実験林では食堂・コンビニの所在地の情報を提供する。また、菅平高原実験所においては、配備された中型バスを使って、近傍フィールドへの実習生の移動を支援する。

(2) 共同利用する大学の利便性の向上等を目的とした取組の見込み

公開実習と受託実習（一部）の受講生と教職員、研究利用者（一部）を対象に、アンケートを実施することで、当該施設と、公開実習の内容や受講手続きに関する問題点や要望を把握し、改善と利便性の向上を図る。これらアンケートに対する改善状況は随時 HP に公開する。アンケートと提出書類の一部オンライン化により、受講希望者や事務担当者の負担を軽減する。また、多様性への配慮を推進し、外国人も快適に利用できるよう、施設利用案内などのさらなる英語化を図る。

(3) その他、共同利用に係る支援のための特色ある取組の見込み

人員不足や利用施設の縮小化・老朽化により、独自の野外実習を縮小せざるを得ない大学において、当該拠点の公開実習を積極的に活用してもらえよう、広報に力を入れる。その一端として公開実習に関する過去のガイダンス資料・実習の様子のリポートをホームページに掲載する。また、林冠タワーの整備等により、利用者の安全性に十分配慮する。公開実習受講生の単位互換率の向上を図るため、個々の大学学部における単位互換条件の調査や受講生の単位互換状況の調査を実施する。調査方法も成績通知時に調査票、返信用封筒を同封する等、先方の負担軽減をはかる。

様式 1

3-4. 情報提供・情報発信等

(1) 共同利用に関する情報（利用方法・利用状況等）の提供の見込み

時期等	概要
令和7年4月	公開実習広報用ポスターおよびリーフレットを全国の国公立大学に発送（約400通）
令和7年4月	本拠点事業のホームページ、facebook、X等のSNSにおいて公開実習に関する利用方法等を発信
令和7年4月	国立大学法人10大学理学部長会議の申合わせに基づく理学研究科等間における学生交流制度（通称STEP10）に登録
令和7年6月	本拠点のホームページにおいて前年度の公開実習利用状況を開示
随時	公開実習と拠点事業の広報ホームページによる情報発信

(2) 拠点に関する情報発信の予定（公開講座、公開講演会等含む）

教育関係拠点公開実習、自然観察会、山の日フォーラム、山の日記念全国大会、信州森フェス等。イベントに山岳科学センターが参加する際には、積極的にポスターやリーフレット等広報物を配布したり、X(旧ツイッター)、facebook、センターホームページに掲載する。また筑波大学や生命環境系のホームページにも情報発信依頼する。

(3) 国際的な対応に向けた取組の見込み

- ・令和2年度から引き続き、国際化を図るべく、外国人留学生や英語での受講を望む日本人学生を対象とした英語による全国公開実習「Laboratory and Field Studies in Biology」を開講する。
- ・外国人留学生や海外研究者の利用に向けて、山岳科学センターのホームページにおいて、令和2年度より英語にて情報発信している。また、施設利用のアンケートも英語で行っている。
- ・開設して8年目を迎える山岳科学学位プログラムでは、アジア圏の留学生が学生全体の3割以上を占める年度があることに加えて、欧米圏の留学生も入学するようになっており、英語での履修体制の充実の成果がうかがえる。その一方で、日本語のみで開講している科目も依然として多くあり、英語での履修も可能な科目を増やすよう、関連教員に積極的に働きかける。また、増加の一途を辿る海外学生からの問い合わせに対して迅速に対応するとともに、適切な指導候補教員を紹介するなど、さらに海外学生の確保に力を入れていく。

4. その他

○当該拠点施設に係る予算関係資料

【別紙様式2】のとおり

※ 事務担当者

役職名	筑波大学教育推進部教育推進課（総務）
氏名	樋口 恵
TEL	029-853-2204
E-mail	k-suishin@un.tsukuba.ac.jp

3－2．共同利用等の状況

(1) 共同利用等の概要

(i) 大学による共同利用等

※別紙様式1-2、別紙様式1-3は別シートにございます。

科目等名		概要	利用人数							単位認定を伴う授業科目	授業科目を設けている大学	共同利用以外の科目	添付資料No.
			学内 ※学生のみ			他大学 ※学生のみ							
			利用人数	うち留学生数	延べ人数	利用機関数	利用人数	うち留学生数	延べ人数				
1	【公開実習】 高原原生生物学実習 (院生対象)	原生生物は、その系統的多様性から予想されるように、その生物学の特徴は極めて多様です。また、いまだ未知の現象、応用性に満ちた生物群です。この実習ではフィールドでサンプルを採集し、さまざまな原生生物を観察することでその多様性に触れ、原生生物の面白さと可能性を体感できます。2025/7/1-4に菅平高原実験所で実施。受講生2名。(筑波大学生物学学位プログラム)	2		8					○	自大学		1
2	【公開実習】 系統地理学実習 (院生対象)	物种はこれまでの長い歴史の中で、地史的イベント、気候変動などを経験し、現在の集団の分布を形成しています。本実習では山岳フィールドでサンプル採取から遺伝解析実験など分子生態学的手法を用いて、対象種の集団遺伝構造を評価し、さらに過去の集団動態の歴史を推定します。これらデータから山岳生物の進化的歴史も考慮して保全および管理について考えます。2025/7/14-18に菅平高原実験所で実施。受講生3名、うち共同利用大学2校、利用学生2名。 (筑波大学山岳科学学位プログラム、信州大学大学院総合理工学研究科、東京農工大学農学府 農学専攻)	1		5	2	2		10	○	自大学		2
3	【公開実習】 動物分類学野外公開実習 (学生対象)	動物界の約3/4の種類数を占める昆虫類は、地球上最も繁栄した分類群といわれます。その全32目中29目の実物を野外で採集して、形態的・分類学的特徴をじっくり観察できる日本で唯一無二の実習です (残りの3目も標本で観察できます！)。昆虫とは何か、なぜ昆虫の多様性が高いのか、それらの答えがここにあります。2025/7/28-8/2に菅平高原実験所で実施。受講生16名、うち共同利用大学2校、利用学生2名。(筑波大学生物学類、近畿大学、中部大学)	14		84	2	2		12	○	自大学		3
4	【公開実習】 節足動物学野外実習 (院生対象)	節足動物はわれわれに最も身近であり、動物既知種の3/4を含む、この地球上で最も繁栄している動物門です。本実習は、この節足動物を対象とし、講義ならびに実際の野外観察・採集・標本作成を行うことにより、節足動物の分類・系統・形態に関する基礎的知識を得、系統分類学の実践を学びます。2025/7/28-8/2に菅平高原実験所で実施。受講生8名、うち共同利用大学2校、利用学生7名。(筑波大学山岳科学学位プログラム、信州大学、福岡教育大学)	1		6	2	7		42	○	自大学		4
5	【公開実習】 土壌調査法実習 (学生対象)	土壌の横顔を観察します！ 土壌の断面を見ることによって、どのようにしてこの土壌が生成されたのか、生成環境はどのような環境なのか、生物との関係は？ 土壌の分類って何？ いろいろなことがわかります。菅平高原の土壌は火山灰からできた土壌です。日本は火山国であるため、世界ではまれな土壌が広く分布しています。その日本独特な土壌の世界をのぞいてみませんか？ 2025/8/6-8に菅平高原実験所で実施。受講生7名、うち共同利用大学2校、利用学生2名。(筑波大学生物資源学類、東京農工大学農学部、東京理科大学)	6		18	1	1		3	○	自大学		5
6	【公開実習】 山岳科学土壌調査法実習 (院生対象)	土壌の調査法を基礎からしっかり学びます。山岳に分布する土壌の特徴を土壌生成分類学的視点から習得します。野外調査を中心にして、土壌調査のエキスパートを目指している人たちから山岳生態系の基礎をいろいろな視点から学ぼうとしている人まで、土壌生成環境の捉え方、土壌の特徴を様々な性質、たとえば、物理的な性質や化学的な性質、または生物的特徴について深く掘り下げて理解することができます。2025/8/6-8に菅平高原実験所で実施。受講生4名。(筑波大学山岳科学学位プログラム、芸術学学位プログラム、東京理科大学創域理工学研究科)	3		9	1	1		3	○	自大学		6
7	【公開実習】 高原生態学実習 (学生対象)	何万年も前から日本に広がっていた草原が、人間による自然攪乱の抑制と草原利用の放棄によって、いま全国規模で急速に減っています。しかし菅平高原には、日本人に古くから親しまれてきた秋の七草など貴重な動植物が豊かな草原に残されています。この草原で、太古から繰り返られてきた植物と訪花昆虫の結びつき、人間と草原との結びつきを学びます。2025/8/25-29に菅平高原実験所で実施。受講生23名、うち共同利用大学6校、利用学生7名。(筑波大学生物学類、長崎大学水産学部、東京大学教養学部、北海道大学理学部、岩手大学農学部、京都大学理学部、立命館大学生命科学部)	16		80	6	7		33	○	自大学		7
8	【公開実習】 山岳高原生態学実習 (院生対象)	氷期・間氷期から日本に広がっていた半自然草原が、自然攪乱の抑制と人為攪乱(草原利用)の放棄によって、いま全国規模で急速に減っています。しかし菅平高原の草原には、古来から親しまれてきた秋の七草を含む希少種・絶滅危惧種が残されています。この草原で野外調査を行い、太古から繰り返られてきた植物ー訪花昆虫、人間ー草原の相互作用を分析します。2025/8/25-29に菅平高原実験所で実施。受講生1名。(筑波大学山岳科学学位プログラム)	1		5					○	自大学		8
9	【公開実習】 モデル生物多様性公開実習 (学生対象)	現代生物学の多くの研究は、酵母、ショウジョウバエ、シロイヌナズナ、ダニなどの「モデル生物」によって支えられています。この実習では、野外に出かけてモデル生物の多様な近縁種を探することで、興味深い生命現象を進化させてきた自然の生態系と、そこでの多様な生き物との係わりを見出してみましよう。2025/9/1-5に菅平高原実験所で実施。受講生18名、うち共同利用大学1校、利用学生1名 (筑波大学生物学類、人間学群障害科学類、京都大学理学部)	17		85	1	1		5	○	自大学		9
10	【公開実習】 菌類分類学野外公開実習 (学生対象)	キノコ、カビ、コウボなど真菌類の多様性、系統分類の基礎を習得します。菅平高原実験所内の森林、草原、溪流フィールドに出て、キノコ等の大型菌類を採集し、実験室に持ち帰り、顕微鏡観察により、それらの形態や構造を詳しく観察して理解を深めます。またフィールドで採集した土壌や水サンプルの粗培養を行い、微小菌類(カビやコウボ)を検出し、分類培養技術についても学びます。2025/9/22-26に菅平高原実験所で実施。受講生21名、うち共同利用大学2校、利用学生2名。(筑波大学生物学類、京都大学理学部、弘前大学農学生命科学部)	19		95	2	2		9	○	自大学		10
11	【公開実習】 菌類多様性野外実習 (院生対象)	推定総種数150万種にも及ぶ菌界(真菌類：ツボカビ門、接合菌 門、子囊菌門、担子菌門)は動物界と単系統群をなすオピストコンタの一員である。現在では系統的には異質であると判明した粘菌類、卵 菌類も含め、従来“菌類(広義)”とみなされてきた生物群を、野外より採集、培養、分離して、観察するための技術を習得し、その多様性について深く理解することを目指します。2025/9/22-26に菅平高原実験所で実施。受講生7名、うち共同利用大学4校、利用学生5名。(筑波大学山岳科学学位プログラム、九州大学大学院生物資源環境科学府資源生物科学専攻、早稲田大学先進理工学研究科生命理工学専攻、静岡大学、信州大学)	2		10	4	5		23	○	自大学		11
12	Laboratory andField Studies in LandBiology (陸域生物学実習) (学生対象)	Let's get a feel for the ways of nature during the snowy season. We can see the footprints left behind by animals and birds searching for food. 2026/2/23-2/27に菅平高原実験所で実施。受講生17名、うち共同利用大学1校、利用学生1名。(筑波大学生物学類、東京大学農学部)	16		80	1	1		5	○	自大学		12

13	【公開実習】 森林水文・砂防学実習 (学生対象)	山岳科学センター井川演習林などをフィールドとして、森林流域での水・土砂流出の調査法を習得する。実際に計測されたデータを題材として、森林の水環境や、山地での土砂移動プロセスを理解し、流域環境のあり方や管理の課題について考察する。7/28-8/1に井川演習林で実施。受講生15名、生命環境学群生物資源学類、生物資源科学部森林学科、大学院 理工情報生命学術院 生命地球科学研究群 環境科学学位プログラム1年)／7/28, 8/24, 12/12に筑波実験林で実施。受講生11名、うち共同利用大学1校、利用学生1名。(筑波大学生物資源学類、日本大学生物資源科学部森林学科)	24		51	1	2		4	○	自大学		13
14	【受託実習】 生物学特講	自然界における生物の相互関係の理解を深めるため、特に植物・昆虫・菌類の関係を中心に講義と観察・実習を行う。観察・実習では、自然観察に必要な目と技術を養うことを目標とする。具体的には、野外での昆虫採集方法、標本の作り方に関する手法を理解させ、野外での昆虫採集の手法を習得し、標本の作り方、目の同定を実践する。講義では、昆虫を中心に動物の分類や生態を紹介し、自然の仕組みとそれを研究するための基礎的な事項について学習させる。最後に、菅平における代表的な自然植生と人為植生との違いを説明し、理解させる。この授業を通して、知識と理解力、企画力、問題解決能力、表現力、創造力を向上させる。7/8-7/11 菅平高原実験所で実施。院生 延べ人数28人。(筑波大学人間総合科学研究群教育学学位プログラム)	7		28					○	自大学		14
15	【受託実習】 地誌学野外実験B	「日本における山岳ツーリズムの持続性」 ある特定地域を選定し、現地での各種の調査法を習得、また、地域の観察方法や諸事象の地表上の展開様式を実際の事例を通して学ぶ。(主たる実習内容は菅平高原全体の土地利用調査；9月7日-10日) 9/10 菅平高原実験所で実施。学生 延べ人数6人。(筑波大学地球学類)	6		6					○	自大学		15
16	【受託実習】 自然環境調査法	ススキ草原と夏緑広葉樹林に生息する生物を対象とした、生物調査法に関する実習。様々な生物を野外で実際に自分の手に取って観察したり、他の生物との相互関係を調べたり、あるいはその生物の生き様に触れる経験をもつことは、生物分野で卒業研究を行う上でも、また将来生物や環境と関わる職種に就くことを希望する者や理科の教員になる者にとっても非常に重要である。本実習では野外において実際の植物相や動物相(主に昆虫相)の調査を行うことにより、生物の多様性の実際を肌で感じてもらう。また、植生の異なる場所における土壌中の動物調査や植物の垂直分布調査を行うことにより、生物の相互関係や環境との関わりについて理解を深めてもらう。8/18-8/22 菅平高原実験所で実施。学生延べ人数30人。(福島大学共生システム理工学類)				1	6		30	○	他大学		16
17	【受託実習】 野外生態学実習I	菅平高原実験所の半自然草原にて、刈り取りが植生遷移に及ぼす効果を学ぶ。8/18-8/22 菅平高原実験所で実施。学生 延べ人数35人。(東邦大学理学部生物学科)				1	7		35	○	他大学		17
18	【受託実習】 生態学実験Ⅱ	フィールドワークを通じて、生物多様性の環境勾配を実測し、それを、統計的に検討する方法について学ぶ。9/8-9/9 菅平高原実験所で実施。学生 延べ人数72人。(千葉大学理学部生物学科)				1	36		72	○	他大学		18
19	【受託実習】 植物生理学実習	自然界における植物の生態・多様性についての野外調査と解析を 実習形式で行う。主に植物生態学、植物生理生態学、群集生態学的な観点からの研究に必要な調査・実験・解析の手法と考え方を習得することを目標とする。これらの目標を達成できたかどうかは実習内で行う成果発表とレポート等で判定する。9/16-9/19 菅平高原実験所で実施。学生 延べ人数68人。(お茶の水女子大学理学部生物学科)				1	17		68	○	他大学		19
20	【受託実習】 野外生物学実習	野外での植物・昆虫の生態調査方法の基礎を学び、野外調査における基本的な行動やデータ取得方法を学ぶ。9/17-9/19 菅平高原実験所で実施。学生 延べ人数24人。(神戸大学人間発達環境学研究科、国際人間科学部)				1	8		24	○	他大学		20
21	【受託実習】 地域環境学野外実習	地域環境の調査や分析に必要な方法や技術、および見方・考え方をフィールドワークの実施により学ぶ。9/16-9/19 菅平高原実験所で実施。学生 延べ人数24人。(東京都立大学都市環境学部観光科学科)				1	8		24	○	他大学		21
22	【受託実習】 野外実習	理学部生体制御学科の集中講義。野外における植物の生態を理解する。2/17-2/19 菅平高原実験所で実施。学生 延べ人数27人。(埼玉大学理学部生体制御学科)				1	9		27	○	他大学		22
23	【受託実習】 山岳微生物学の授業	動植物と様々な形で密接な関わりを持つ酵母、カビ、キノコなどの真菌類や細菌類など「微生物」は山岳域の生態系に必要不可欠な存在である。山岳や極地に生息する微生物の基礎について概説するとともに、山岳域の気候風土を活かした醸造や漬物等発酵食品の製造、もしくは食用キノコの栽培や地衣の採取など、山岳域ならではのユニークな微生物利用に関する実地見学を1回程度実施し、その応用の可能性についても考える。3/3-3/7 菅平高原実験所で実施。院生 延べ27人。(筑波大学理工情報生命学術院生命地球科学研究群山岳科学学位プログラム)	9		27					○	自大学		23
24	【受託実習】 第10回森林フィールド講座・八ヶ岳編ー八ヶ岳の森と生物ー	筑波大学山岳科学センター八ヶ岳・川上演習林を舞台として、八ヶ岳の森と生物ついて学ぶ。八ヶ岳演習林では、湿地林と広葉樹二次林で自然観察、川上演習林では、人工林の自然観察と野生動物を観察する。(8/4-8/7)北海道大学教育拠点実習 延べ人数52人。(北海道大学、明治大学、静岡大学、東京外国語大学、名古屋大学、京都大学、法政大学、東京農業大学)				8	13	2	52	○	他大学		24
25	【受託実習】 森林総合実習	山岳科学センター八ヶ岳・川上演習林において、森林動植物の観察、樹木調査、森林管理の体験をするとともに、樹木の生態・生理に関する知識、動物と森林の関わりや森林の利用を習得して樹木と森林の役割を総合的に理解する。8/4-8/7、八ヶ岳・川上演習林で実施。延べ人数42人。(筑波大学 生物資源学類、生物資源学学位プログラム)	9		42					○	自大学		25
26	【受託実習】 陸域フィールド実習I (自然保護寄附講座)	自然保護、特に陸域の生物多様性保全に関連する野外調査手法等を身につけ、希少野生生物の生育環境などの観察を行う。7/22-7/25、八ヶ岳・川上演習林にて実施。延べ人数16人。(筑波大学 生物資源学学位プログラム、地球科学学位プログラム)	4		16					○	自大学		26
27	【受託実習】 森林生物学実習	樹木の分類学的・生態学的知識を深めることを目的とする。森林を歩きながら植物の観察・採集をおこない、樹木の名前、特徴、生育地、名前の由来などの知識を体得する。9/2～9/6、八ヶ岳・川上演習林にて実施。延べ人数100人。(筑波大学 生物資源学類、山岳科学学位プログラム)	20		100					○	自大学		27
28	【受託実習】 森林実習	野外での植物の形態観察や顕微鏡によるサンプルの観察などを行い、植物の名前、特徴などの知識を身につける。8/20-8/22、八ヶ岳・川上演習林にて実施。延べ人数48人。(神奈川大学 理学部生物科学科)				1	16		48	○	他大学		28
29	【受託実習】 山岳フィールド実習A	山岳科学学位プログラム・山岳フィールド実習A。9/9～9/12、川上演習林、浅間山等にて実施。延べ人数128人。(筑波大学 山岳学位プログラム、環境科学学位プログラム)	32	2	128					○	自大学		29
30	【受託実習】 植物寄生菌実験	演習林内で植物寄生菌の採集、実験棟での標本作成、講義などを行う。9/16～9/18、八ヶ岳・川上演習林にて実施。延べ人数26人。(筑波大学 生物資源学類、農学学位プログラム、生物資源科学学位プログラム)	9		26					○	自大学		30

48	【研究利用・指導】 カンアオイ属ウスバサイ シン節国内種の遺伝的多 様性研究	ウスバサイシン節が属するウマノスズクサ科カンアオイ属は東アジアを中心に100種以上が知られ（Shin et al., 2015）、多様性の高い形態・生態や進化史を持つ分類群である。しかし本属を対象とする先行研究の多くではカンアオイ節を用いており、ウスバサイシン節を主とした事例は多くない。日本産ウスバサイシン節は7種中5種がレッドリストに記載されている希少な存在であり、生息地の開発のみならず盗掘やシカ等の野生動物による被害の影響の深刻化が危惧されている。また、漢方薬・細辛の材料としての利用やヒメギフチョウの食草であることなど、多様な生態系サービスの供給者でもある。そこで本研究ではネイチャーポジティブ実現に寄与するウスバサイシン節の保全策社会実装を最終目標とし、本節の適切な保全推進に必要な科学的知見の蓄積を目的に研究を行う。（筑波大学理工情報生命学術院生命地球科学研究群生物学学位プログラム院生、延べ人数50人 菅平高原実験所）	7			50							自大学	○	
49	【研究利用・指導】 クロサンショウウオの卵 に共生する緑藻の系統分 類学的研究	クロサンショウウオの卵に共生する緑藻について、その形態を明らかにする。（筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球科学研究群院生、東京大学大学院新領域創成科学研究科院生 延べ3人 菅平高原実験所）	2			2	1	1	1	1			自大学	○	
50	【研究利用・指導】 植生再生過程における植 物-送粉者、植食者多様性 の変化	本研究では、歴史の異なる草原（新草原・古草原）の送粉・植食ネットワークの状態を比較し、以下の予測を検証する。新草原は、古草原に比べ、(1)送粉者および植食性昆虫の多様性は低くジェネラリスト化する。また、新草原では、(2)造成時期が古い場所ほど、虫媒植物の種・機能的多様性が高くなり、ネットワークはよりスペシャリスト化している。以上の仮説を検証することを目的とする。（神戸大学人間発達環境学研究科院生、延べ63人 菅平高原実験所）					1	6		63			他大学	○	
51	【研究利用・指導】 へびの臭腺分泌物による 捕食者誘引効果の野外検 証	申請者らが提唱した「呪い仮説」は、動物が防御のために放出する分泌物が、捕食者に付着し、その捕食者の天敵（高次捕食者）を誘引するというものである。室内実験では、シマヘビの臭腺分泌物が、その捕食者（鳥類など）の天敵にあたるアオダイショウ成体を誘引することが示され、この仮説が支持された。本研究では、この実験室で確認されたシマヘビ臭腺分泌物によるアオダイショウの誘引効果が、より複雑な野外環境においても実際に生じるのかを検証する。さらに、分泌物が付着した対象の捕食リスクを増加させるのかも直接検証する（早稲田大学大学院先進理工学研究科生命理工学専攻院生、延べ23人 菅平高原実験所）					1	11		23			他大学	○	
52	【研究利用・指導】 菌えいを餌資源とする昆 虫は菌えいのどこを同化 して、どのように菌えい に宿主転換・拡大を起こ しているのか	菌えいとは菌類が植物体の一部を肥大成長させた菌基質・植物基質の両方を有する構造物である。菅平実習所内で植物体上に生じた菌えいを採取する。具体的には菌えい部分を選定ばさみで刈り取る方法をとる。採取する菌えいの種類はアスナロ天狗巣病を想定している。また、サンプリング範囲は地図の黒枠内で行う。（早稲田大学大学院先進理工学研究科生命理工学専攻院生、延べ3人 菅平高原実験所）					1	1		3			他大学	○	
53	【研究利用・指導】 山岳地域の訪問者の非意 図的な種子導入に関わる 要因	グローバリゼーションによる人間活動の増加によって外来植物の侵入の規模や速度が拡大している。人間は移動性の向上と人口の増加により媒介者として高い能力を持ち、非意図的な導入の侵入経路は衣類や車両を介した導入など多岐にわたる。しかし外来植物は効果的な対策により防除が可能であり、最も費用対効果が高いとされる導入の未然防止が求められる。外来植物の種子の導入量の規定には、侵入プロセス(媒介者への侵入、輸送、脱落)の各段階で異なる要因の影響を受けることが明らかになっている。媒介者への侵入段階では訪問者への種子の付着の要因、輸送段階では除去行為の有無、脱落段階では除去されずに輸送された種子の量が関係する。侵入初期段階である付着から脱落の段階に着目した研究は、侵入後期にあたる定着から拡散の段階の研究より少ない。外来植物の侵入の未然防止には、経験的データを用いた侵入プロセスの実態の把握が必要である。本研究の目的は、外来種侵入防止に向けて効果的な保全を行うために、導入する種子の量を規定する上での重要な侵入プロセスを理解することである。（東京農工大学農学府 農学専攻自然環境資源コース自然環境保全学プログラム院生、延べ3人 菅平高原実験所）					1	1		3			他大学	○	
54	【研究利用・指導】 タケ類に寄生する菌類の 分類学的研究	タケ類寄生菌の採集。アカマツ林と広葉樹林においてタケ類の罹病葉を採取する。（三重大学生物資源学研究科院生、延べ2人 菅平高原実験所）					1	1		2			他大学	○	
55	【研究利用・指導】 昆虫（無脊椎動物）嗜好 性線虫の分類と多様性	昆虫（無脊椎動物）嗜好性線虫の分類と多様性、生態的関係を基礎研究として調査する。また、この過程で得られた特殊な生理、生態的特徴を持つ種類に関しては、モデル（研究材料）として、他の研究分野への応用を行う。（明治大学農学部院生、延べ4人 菅平高原実験所）					1	1		4			他大学	○	
56	【研究利用・指導】 ・Determine how land- use and microclimate affect bee populations and determine community composition ・Collect data on species interactions between flowers and bees ・Collect habitat data for flowering plants and bees	Recently, insect declines are being reported around the world, and there is worry that declines in pollinator populations and diversity may affect global food security. Much research into pollinators and their potential stressors has progressed in North America and Europe, but Asia and Africa have fallen behind. This research proposal presents an opportunity to help shed light on bee diversity. Nagano is considered as one of the most diverse regions for bee diversity in Japan, so we would like to sample at Sugadaira. Manual collection of bees will be carried out using a sweep net, flowers will be observed using timelapse cameras (installed for several hours by planting a stake in the ground and fixing the camera to it), seeds of flowering plants will be collected, and data for habitat and flora will be recorded.（東北大学生命科学研究科マクロ生態分野院生、延べ8人 菅平高原実験所）					1	2	2	8			他大学	○	
57	【研究利用・指導】 大陸から隔離されて長野 に分布する絶滅危惧植物 ツキヌキノウの保全遺伝 学的研究	実験所内および菅平高原地域におけるツキヌキノウ自生集団について、自生地の状況や生育環境の光条件、光合成能力などの調査を行う。実験所外の集団については、DNA解析用サンプルの採取も行う。サンプルはお茶の水女子大学に持ち帰り、DNA解析を行うことで集団遺伝構造や遺伝的多様性を明らかにする。最終的には、集団遺伝構造や遺伝的多様性の情報を元に、長野県におけるツキヌキノウ集団の保全計画の策定に貢献することを目的とする。（お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科ライフサイエンス専攻院生、延べ2人 菅平高原実験所）					1	1		2			他大学	○	
58	【研究利用・指導】 千曲川の生物多様性研究	環境DNA、生態調査により千曲川流域の生物多様性を評価する。（東北大学大学院生命科学研究科院生、延べ4人 菅平高原実験所）					1	1		4			他大学	○	
59	【研究利用・指導】 半自然草原生植物の被食 防御様式	半自然草原生植物の被食防御、特に化学的防御において、葉内に集積している化学物質を解明する。（東京農業大学地域環境科学部地域創成科学科保全生態学研究室院生、学生 延べ18人 菅平高原実験所）					1	6		18			他大学	○	
60	【研究利用・指導】 菅平高原に生育する遺存 分布植物についての保全 遺伝学的研究	菅平高原に生育する遺存分布植物であるツキヌキノウ、カラフトイバラ、クロビイタヤなどについて野外調査を行うとともに葉サンプルを採集してDNA解析を行い、北海道などの他地域との間の遺伝的関係性を明らかにすることを目的とする。（お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科ライフサイエンス専攻院生、延べ1人 菅平高原実験所）					1	1		1			他大学	○	

61	【研究利用・指導】 日本産 <i>Stagonospora</i> 属様菌の分類学的検討	Pseudoasteromassaria属やCrassiperidium属など、Stagonospora属菌に類似した円筒形の分生子をもつ菌類が日本各地の木本植物の枯枝から得られており、これらの属は形態的特徴や分子系統学的特徴に基づき狭義Stagonospora属とは区別されている。Stagonospora属様菌は系統学的に複数の系統で確認されており、未知の系統群が多く存在することが考えられる。日本各地の様々な木本植物を採集することで未知の分類群を明らかにすることが本研究の目的である。（弘前大学農学生命科学食料資源学科学生、延べ5人 菅平高原実験所）				1	1		5		他大学	○	
62	【研究利用・指導】 植生遷移に伴う土壤中のブラックカーボン量の鉛直分布の変化に関する研究	黒ボク土の黒色土層A層の黒みが植生遷移に伴い褪色する現象が観察されている。黒みの起源物質の一つと考えられている燃烧炭（ブラックカーボン）含量の鉛直分布を植生（ススキ→アカマツ→混交林）の違いに応じて測定することで、土壌有機物の安定性と植生遷移の関係を探る。（神戸大学大学院農学研究科院生、農学部学生、延べ20人 菅平高原実験所）				1	4	2	20		他大学	○	
63	【研究利用・指導】 施業履歴の異なるカラマツ人工林において植生に違いが生じる要因	筑波大学生物資源学類の卒研（筑波大学生物資源学類 学生延べ人数 19人、静岡大学山岳流域研究院院生延べ人数3人 ハヶ岳・川上演習林）	5		19	1	1		3		自大学	○	
64	【研究利用・指導】 カバノキ属とカラマツ属の花粉生産量に関する研究	ダケカンバ林、シラカンバ林、カラマツ林のリタートラップからリターを回収。および雄花採取。（京都府立大学大学院生命環境科学研究科院生、学生、延べ人数21人ハヶ岳・川上演習林）				1	6		21		他大学	○	
65	【研究利用・指導】 ハヶ岳演習林におけるサクラソウとくろば菌のエコゲノム研究	野生サクラソウ集団の保全方法を構築するため、ハヶ岳演習林内のサクラソウ集団を対象に、くろば菌の発生状況とサクラソウの遺伝的多様解析を行う。（玉川大学農学部院生延べ人数2名 ハヶ岳演習林）				1	1		2		他大学	○	
66	【研究利用・指導】 「森林生態系による資源獲得のための陰イオン利用戦略とその規定要因の解明」と「養分放出特性に基づいた有機資材評価法の検討」	林内における土壌調査、リター、土壌および土壌溶液試料の採取。修論・卒論研究。（京都大学大学院地球環境堂の大学院農学研究科地球環境科学専攻院生1名留学生、研究生米フロリダ大学博士課程交換留学生 延べ人数6人 ハヶ岳演習林）				1	3	1	6		他大学	○	
67	【研究利用・指導】 ダケカンバ産地試験林における水利用特性の産地間変異、呼吸速度計測	圃場にあるダケカンバ産地試験林における産地間の生育特性の調査（静岡大学大学院山岳流域研究院 院生、農学部 学生 延べ人数64人 ハヶ岳演習林）				1	18		64		他大学	○	
68	【研究利用・指導】 ハヶ岳でのカメラトラップ調査	演習林内に観測用スカメラを設置。（筑波大学生物資源学学位プログラム院生延べ人数7人 ハヶ岳演習林）	2		7						自大学	○	
69	【研究利用・指導】 土地利用変化に関連した二ホンジカの食害がハヶ岳の針葉樹林の更新動態に与える影響	山岳学位プログラムの修論（筑波大学院生延べ人数32人 ハヶ岳演習林）	7		32						自大学	○	
70	【研究利用・指導】 ニワトコと種子食性ケシスイの共進化の解明	卒研、ニワトコのサンプルのみ回収（神戸大学理学部生物学科 延べ人数1名ハヶ岳・川上演習林）				1	1		1		他大学	○	
71	【研究利用・指導】 立地環境の異なる冷温帯林におけるリター分解過程の比較検証	山岳学位プログラムの修論（筑波大学院生延べ人数23人 ハヶ岳演習林）	5		23						自大学	○	
72	【研究利用・指導】 湿性遷移に伴う樹上と林床のアリ群衆の変化	演習林内に於いて、林床と樹上にアリトラップを設置しアリ群衆を比較する。地上高8m、1 m、0mに蜂蜜、ツナ、水の容器を設置して、アリを誘引して採集する。（東京農工大学大学院連合農学研究科 院生、農学部 学生延べ人数6人 ハヶ岳演習林）				1	2		6		他大学	○	
73	【研究利用・指導】 バラ科リンゴ連に属する日本在来野生種の種子散布者の解明	卒研 ハヶ岳演習林においてはアオナシ調査を実施（東京大学大学院理学系研究科付属植物園 理学部生物学科 学生延べ人数 2人 ハヶ岳演習林）				1	1		2		他大学	○	
74	【研究利用・指導】 ニワトコと種子食性ケシスイの共進化の解明	ニワトコと種子食性ケシスイの共進化の解明。（神戸大学 理学部 生物学科4年次 延べ人数7人 井川演習林）				1	1		7		他大学	○	
75	【研究利用・指導】 井川演習林内の中小河川におけるカメラを利用した流速・流量測定	井川演習林内の中小河川におけるカメラを利用した流速・流量測定。（筑波大学 大学院 理工情報生命学術院 生命地球科学研究群 環境科学学位プログラム1年 延べ人数14人 井川演習林）	2		14						自大学	○	
76	【研究利用・指導】 ボーリングコア試料および水文観測体制などの見学	演習林内で採集した地層のボーリングコアや、湧水等の水量・水質を観測する体制を見学し、見識を広める。（筑波大学大学院 理工情報生命学術院 生命地球科学研究群 環境科学学位プログラム 延べ人数4人、井川演習林）	4		4						自大学	○	
77	【研究利用・指導】 ショウジョウバエの季節消長	各種ショウジョウバエの各種採集を行うことで、季節消長の違いを明らかにする。（筑波大学生物学学位プログラム院生 延べ人数362人 筑波実験林）	1		362						自大学	○	
78	【研究利用・指導】 三宅島での鳥類を対象としたカメラトラップ調査のための予備的実験	植物見本園での自動撮影カメラの設置（筑波大学生物学類学生 延べ人数20人筑波実験林）	2		20						自大学	○	
79	【研究利用・指導】 低温処理による花茎形成に関する植栽実験	ガラス室での植栽試験（筑波大学生物資源科学学位プログラム院生 延べ人数35人 筑波実験林）	1		35						自大学	○	
80	【研究利用・指導】 スゴモリハダニ類をめぐるカブリダニ類の種間関係について	圃場での資料採取（筑波大学生命環境系教員、生物学類学生 延べ人数72人筑波実験林）	1		72						自大学	○	
81	【研究利用・指導】 ススキスゴモリハダニ種群における生殖的隔離の強化	圃場での資料採取（筑波大学生物学学位プログラム院生 延べ人数72人 筑波実験林）	1		72						自大学	○	
82	【研究利用・指導】 スゴモリハダニ属における社会性と巣内衛生行動について	圃場での資料採取（筑波大学生物学学位プログラム院生 延べ人数72人 筑波実験林）	1		72						自大学	○	

103	【その他教育活動】 研究室見学・訪問	菅平高原実験所所属教員の研究室視察（法政大学生命科学応用植物化学科 奈良女子大学理学部生物環境科学 延べ人数4人 菅平高原実験所）				2	2		4				
104	【その他教育活動】 菌類相調査	菌類相調査 10/6-10/8(筑波大学、信州大学、北海道大学 院生、学生 延べ 人数18人)	5		13	2	2		5				
105	【その他教育活動】 狩猟見学会	井川地区における銃を用いた狩猟の見学。2025/11/22-24。（筑波大学理工情 報生命学院 延べ人数18人 井川演習林）	6		18								
106	【その他教育活動】 植生フェノロジー長期変 動観察のためのタイムラ プスカメラシステムの運 用	「管理棟屋上へのタイムラプスカメラの設置」（筑波大学理工情報生命学院 生物資源学科 延べ人数15人 筑波実験林） 4月：30日、5月：31日、6月： 30日、7月：31日、8月：31日、9月：30日、10月：31日、11月：30日、12月： 31日、1月：31日、2月：28日、3月：31日	6	1	15								
107	【その他教育活動】 筑波大学附属坂戸高等学 校「施設見学」	教育実習生1名。「施設見学」10/21（延べ人数1人 筑波実験林）	1		1								
108	【その他教育活動】 スギ産地試験の調査	「スギ圃場の整備」（筑波大学理工情報生命学院 延べ人数3人 筑波実験 林） 2025/12/18	3		3								
109	【その他教育活動】 シンポジウム「総合科学 としての山岳研究への探 求」	本シンポジウムでは、MSCの教育研究の三本柱である領域、山理解、山管理、 山活用を統合した「山岳科学」の確立を目指して、今後の方向性への議論を行 ない、閉会後も、参加者と演者として活発な議論が見受けられた。（延べ14人 筑波キャンパス 2026/2/19）	14		14								109
計			1074	29	3162	85	289	16	985				

（注） 1．当該拠点施設における実習を授業科目（一部分として実施するものを含む）として実施し単位認定を伴う授業科目には、その概要を簡明に記入するとともに教育課程上の実習利用状況を記入してください。また、当該科目のシラバスを併せて添付してください。単位認定を伴わない授業科目については、その概要を簡明に記入するとともに教育課程上の実習利用状況を記入し、シラバス又は実習の内容が分かる資料を添付してください。

2．他大学に提供する実習について、実習の提供に当たっては、原則として、当該施設の実習における教育は保有大学の教員等が行い、保有大学が安全管理上の責任を負うこととされているため、添付資料（シラバス又はその他の資料）の当該施設及び教職員の関わり方について記載している箇所をハイライト等で明示してください。

3．留学生を対象とした実習等を提供している場合は、留学生の利用人数について内数で記載してください。

4．拠点として提供している共同利用以外の科目等も記入してください。当該科目については「共同利用以外の科目」欄に「○」を付して分かるようにしてください。

別紙様式1-2

3－2．共同利用等の見込み状況
(1) 共同利用等の概要
(ii) 大学以外の機関による利用

※別紙様式1-1、別紙様式1-3は別シートにございます。

	取組名	概要	利用人数	延べ人数	添付資料No.
1	【受託実習】 植物寄生菌実験	演習林内で植物寄生菌の採集、実験棟での標本作成、講義などを行う。9/16～9/18、八ヶ岳・川上演習林にて実施。延べ人数1人　山梨県森林総合研究所	1	1	
2	【研究利用・指導】 昆虫（無脊椎動物）嗜好性線虫の分類と多様性	昆虫（無脊椎動物）嗜好性線虫の分類と多様性、生態的関係を基礎研究として調査する。また、この過程で得られた特殊な生理、生態的特徴を持つ種類に関しては、モデル（研究材料）として、他の研究分野への応用を行う。（森林総合研究所関西支所　延べ4人　菅平高原実験所）	1	4	
3	【研究利用・指導】 八ヶ岳演習林におけるサクラソウとくろぼ菌のエコゲノム研究	野生サクラソウ集団の保全方法を構築するため、八ヶ岳演習林内のサクラソウ集団を対象に、くろぼ菌の発生状況とサクラソウの遺伝的多様解析を行う。（国立科学博物館　研究員　延べ人数2人　八ヶ岳演習林）	1	2	
4	【研究利用・指導】 井川地域の土地利用と在来作物の持続（小河内集落・田代集落）	井川地域の土地利用と在来作物の持続（小河内集落・田代集落）。（国立民族学博物館　延べ人数11人　井川演習林）	1	11	
5	【研究利用・指導】 付加体堆積岩山地における水文・地盤情報カップリングによる雨水貯留・排水特性の把握	付加体堆積岩山地における水文・地盤情報カップリングによる雨水貯留・排水特性の把握。（（国研）森林研究・整備機構　森林総合研究所、　延べ人数8人　井川演習林）	2	8	
6	【研究利用・指導】 ボーリングコア試料および水文観測体制などの見学	演習林内で採集した地層のボーリングコアや、湧水等の水量・水質を観測する体制を見学し、見識を広める。（国土防災技術株式会社　延べ人数1人　井川演習林）	1	1	
7	【その他教育活動】 公益財団法人発行研究所研究助成「フィールド菌類園-天然のカルチャーコレクション-構築のための菌類インベントリ調査」	菅平高原実験所の菌類多様性のデータベース化、菌類多様性の解明。「菅平変形菌ワークショップ」「菅平高原実験所内の変形菌類相」「菅平高原実験所構内の微小菌類相の解明」「菅平高原実験所構内の植物病原菌相の解明」「菅平高原実験所構内の盤菌相の解明」「菅平高原実験所構内のコウヤクダケ類の多様性の解明」「サビキン類、昆虫寄生性および菌寄生性の不完全菌類、樹木病害を引き起こす卵菌類の採集」「菅平高原産さび菌類相の調査」「菅平高原の大型菌の子実体・キノコ」「菅平高原実験所構内の硬質菌類相」（延べ人数481人　菅平高原実験所）	363	481	
8	【その他教育活動】 歴史が生み出す二次的自然のホットスポット：環境価値と保全効果の「見える化」：調査標本同定のための利用	歴史の古い草原における生態系の多機能性の規定要因の解明。草原における継続年数の違いが、植物や土壌微生物の多様性・組成を介してどのようなメカニズムで生態系の多機能性に影響を与えるのかを明らかにする。2026/1/29（神戸市環境局、株式会社DeLT、延べ人数5人　菅平高原実験所）	2	5	
9	【その他教育活動】 食用昆虫の探索および森林・水生昆虫資源の調査	食用昆虫の探索および森林・水生昆虫資源の調査。水生昆虫や森林昆虫の食利用の可能性を調査する。2025/9/9-10　（NPO法人食用昆虫科学研究会会員、その他　延べ人数7人　菅平高原実験所）	3	7	
10	【その他教育活動】 第44回菅平動物学セミナー	11月29日～30日に「第44回菅平動物学セミナー」が開催された。本セミナーは、コロナの影響による3年の中断を挟んで、1980年から毎年開催されてきた。27題の発表があり、どの研究発表も完成度の高い、そして独創性に溢れる研究で、それぞれの発表では活発な質疑が交わされた。（農業・食品産業技術総合研究機構、佐久市立東小学校、エーエフマネジメント株式会社、株式会社CTIリード、その他　延べ人数10人）	10	10	
11	【その他教育活動】 令和7年度筑波大学公開講座「高校生のための菌類学入門」	7月、菅平高原実験所にて、令和7年度筑波大学公開講座「高校生のための菌類学入門」を開催した。この講座は日本菌学会が後援し、大阪市立自然史博物館学芸課長の佐久間大輔さんにご協力いただいた。2025/1/17（常総学院高等学校、成城高校、長野県立上田高等学校、静岡県立科学技術高等学校、東京都立多摩技術高校、長野県立須坂高等学校、その他　延べ人数51人）	37	51	1_2_11
12	【その他教育活動】 菌類についてのセミナー	菌類についてのセミナー　10/15（上田千曲高等学校　教員　延べ人数4人　菅平高原実験所）	4	4	
13	【その他教育活動】 自然観察会（夏・秋・冬）	2025「初夏の草原と森の観察、そして滝へ」7/5、7/12「秋の草原と森の観察、そして滝へ」10/4、10/11「冬の生き物たちと大明神の滝」1/31、2/7と題して1年に3回自然観察会を開催した。（ナチュラリスト・養成講座受講生　その他　延べ人数236人）	236	236	1_2_13
14	【その他教育活動】 遠足　大明神滝	大明神の滝遠足　9/12（上田市菅平小学校　延べ人数26人　菅平高原実験所）	26	26	
15	【その他教育活動】 上田市菅平中学校総合学習	「絶滅危惧種見学」6/27「菅平湿原外来植物駆除」9/19「茅場での茅刈り活動」10/31「2024年度活動発表会」2025/6/20「2025年度活動中間発表会」2026/3/3　（上田市菅平中学校　延べ人数194人　菅平高原実験所）	194	194	
16	【その他教育活動】 第13回信州森フェス!2025	2025/6/28～29、「信州森フェス！2025」が開催された。　筑波大学山岳科学センター後援。 信州森フェス！は、森とひとの関わりや森とつながる暮らしについて、森のなかで楽しみながら考えてもらうきっかけになればと2011からスタートしたイベントである。28日には菅平高原実験所の出川洋介（生命環境系　准教授）がプログラムに出演した。（延べ人数20人　菅平高原実験所）	20	20	1_2_16
17	【その他教育活動】 第8回 花の百名山根子岳笹刈りイベント	山野草の回復を目的として、有志を募集し笹刈りを実施した。山野草等に関する知識を参加者に深めてもらうためレクチャー等も行った。10/18　（延べ人数24人　菅平高原実験所）	24	24	1_2_17
18	【その他教育活動】 峰の原の草原をつくろう Vol.11第1回第2回	長野県須坂市、北アルプスの絶景が見わたせる標高1,500mの峰の原高原では、草刈りや外来種の引き抜きをおこない、失われつつある在来山野草の草原を保全している。 今年で11回目となる下記イベントを開催します。筑波大学山岳科学センター後援。 第1回　7/6　初夏の山野草を楽しみながらススキ刈り 第2回　9/7　初秋の山野草を観察しながら自然観察会 （延べ人数54人　菅平高原実験所）	54	54	1_2_18
19	【その他教育活動】 山田牧場お楽しみシンポジウム　みんなで山田牧場を語ろう！	長野県上高井郡高山村にある山田牧場で「山田牧場お楽しみシンポジウム　みんなで山田牧場を語ろう！」が開催された。このイベントは、山田牧場が今年「未来に残したい草原の里100選」に認定されたことを記念して開催され、菅平高原実験所・八ヶ岳演習林の津田吉見（生命環境系　准教授）が顧問を務める「山田牧場を愛する会」が主催した。筑波大学山岳科学センター共催、高山村、高山村教育委員会後援。津田准教授らによる講演やワークショップも行われた。11/16 （延べ人数67人　菅平高原実験所）	67	67	1_2_19
20	【その他教育活動】 樹木園・大明神寮見学	技術専門職員による案内。（上田市上野が丘公民館職員、その他　延べ人数15人　菅平高原実験所）	15	15	
21	【その他教育活動】 上田市中央公民館ことぶきアカデミー	研修・講座　講義を行う。（延べ人数20人　菅平高原実験所）	20	20	
22	【その他教育活動】 上田地域とその近隣地域の植物観察・信州忘れな草の会植物観察発表会	長野県植物研究会（延べ人数13人　菅平高原実験所）	13	13	

23	【その他教育活動】 まちなかキャンパス市民向け講座	「地域を支える自然史博物館～菅平高原自然館の現状と課題」（まちなかキャンパスうえた）を開催した。この市民向け講座は長野県上田市との協働により筑波大学山岳科学センターが企画・運営し、講師は菅平高原実験所の出川洋介（生命環境系 准教授）が務めた。2/26 （延べ人数21人 菅平高原実験所）	21	21	1_2_23
24	【その他教育活動】 恵みの森の植物観察	（かわさき市民アカデミー生涯学習みどり学Ⅰ）7/22 （延べ人数40人 八ヶ岳演習林）	40	40	
25	【その他教育活動】 菌類相調査	菌類相調査 10/6-10/8（神奈川県立生命の星地球博物館、岡山きのご研究会、日本冬虫夏草の会、北海道道立総合研究所 延べ9人 八ヶ岳演習林）	4	9	
26	【その他教育活動】 筑波大学夏休み自由研究お助け隊2025	「木の断面を見てみよう」8/2（自由の森学園中学校 延べ人数1人 筑波実験林）	1	1	1_2_26
27	【その他教育活動】 つくばまちなかデザイン株式会社「小中学校向け探求教室」	小学生7名・保護者4名・講師スタッフ4名「小中学校向け探求教室」9/27 つくばまちなかデザイン株式会社（延べ人数14人 筑波実験林）	14	14	
28	【その他教育活動】 筑波大学附属坂戸高等学校「施設見学」	高校生15名 引率教員2名「施設見学」10/21（延べ人数17人 筑波実験林）	17	17	
29	【その他教育活動】 群馬県立太田東高等学校「施設見学」	高校生40名 引率教員2名「施設見学」10/24（延べ人数40人 筑波実験林）	42	42	
30	【その他教育活動】 シンポジウム「総合科学としての山岳研究への探求」	本シンポジウムでは、MSCの教育研究の三本柱である領域、山理解、山管理、山活用を統合した「山岳科学」の確立を目指して、今後の方向性への議論を行ない、閉会後も、参加者と演者として活発な議論が見受けられた。 (2026/2/19 延べ4人 筑波キャンパス)	4	4	109
		計	1238	1402	
(注) 大学以外の機関（大学共同利用機関法人、民間、独立行政法人、外国の研究機関、小学校・中学校・高等学校等）による利用があれば記載してください。					

※別紙様式1-1、別紙様式1-2は別シートにあります。

3－2．利用の状況
(2) 利用状況

利用機関		令和7年度			備考
		利用機関数	利用人数	延べ人数	
学内（法人内）		81	1074	3162	
内数	他大学	85	289	985	
	国立大学	61	209	741	
	公立大学	3	17	48	
	私立大学	21	63	196	
内数	大学以外の機関	64	1238	1402	
	大学共同利用機関法人	1	1	11	
	民間・独立行政法人等	63	511	654	
	外国の研究機関	0	0	0	
	その他		726	737	
(利用者数全体のうち大学院生)		85	294	1758	
計		145	2312	4564	

(注) 1. 当該年度の共同利用拠点の利用実績について、利用機関数、利用人数、延べ人数を区分に応じて記入してください。なお、大学の利用人数の内訳は学生の利用人数のみとしてください。（教職員等の利用は含まない。）
2. 「学内」の利用機関数は「学部数」等を記入してください。
3. 「練習船」の場合には、「備考」の欄に「年間運航可能日数」「年間運航日数（実績）」「共同利用日数（実績）」を記入してください。
4. 別紙様式1-1及び1-2の人数等と整合するようにしてください。整合しない場合はその理由を備考欄にお書きください。

別紙様式2

4. その他

○当該拠点施設に係る予算関係資料

【令和7年度予算額】

	金 額
	千円
教育関係共同利用拠点に係る分	7,385
運 営 費 交 付 金	7,385
学 内 負 担 額	0
その他拠点施設に係る分	0
計	7,385

【令和7年度経費積算内訳】※教育関係共同利用拠点に係る分のみ

経 費 区 分	金 額			積 算 内 訳
	金 額	運営費交付金	学 内 負 担 額	
	千円	千円	千円	
(人 件 費)	4,850	4,850		エデュケーションアドミニストレーター(UEA) 4,350千円 (1人×4,300千円) 技術補佐員(実習補助担当1人×500千円) 500千円
(運 営 費)	2,535	2,535		委員会経費 135千円 消耗品費 122千円 国内旅費 150千円 公開実習支援費 458千円 ステーション支援費 1670千円
(設 備 費)	0			
計	7,385			

山岳科学センター施設使用料の改定について

近年の電気料金や灯油等の燃料価格の上昇のほか、最低賃金の引上げによる人件費負担等に伴い、令和7年4月1日の利用から施設使用料を改定いたします。

○施設使用料

・菅平高原実験所宿泊棟(1泊あたり)

	現行			改定後		
	利用期間			利用期間		
	2泊以内	3泊以上3カ月未満	3カ月以上	2泊以内	3泊以上	(削除)
教職員・研究員・その他一般	1,300円	1,300円	1,300円	<u>2,400円</u>	<u>2,400円</u>	
学生・研究生	1,300円	900円	600円	<u>1,600円</u>	<u>1,200円</u>	

・ハヶ岳演習林宿泊棟(1泊あたり)

現行		改定後	
(区分なし)	500円	教職員・研究員・その他一般(学内)	<u>2,000円</u>
		教職員・研究員・その他一般(学外)	<u>2,500円</u>
		学生・研究生	<u>500円</u>

・井川演習林宿泊棟(1泊あたり)

現行		改定後	
(区分なし)	600円	教職員・研究員・その他一般(学内)	<u>1,500円</u>
		教職員・研究員・その他一般(学外)	<u>2,500円</u>
		学生・研究生	<u>1,000円</u>